

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成25年7月12日

【四半期会計期間】 第33期第3四半期(自平成25年3月1日至平成25年5月31日)

【会社名】 株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス

【英訳名】 AFC - HD AMS Life Science Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 浅山 雄彦

【本店の所在の場所】 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

【電話番号】 054-281-0585(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役社長室長 白鳥 弘之

【最寄りの連絡場所】 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

【電話番号】 054-281-5238(直通)

【事務連絡者氏名】 取締役社長室長 白鳥 弘之

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第32期 第3四半期 連結累計期間	第33期 第3四半期 連結累計期間	第32期
会計期間		自 平成23年9月1日 至 平成24年5月31日	自 平成24年9月1日 至 平成25年5月31日	自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日
売上高	(千円)	10,989,840	10,793,813	14,794,674
経常利益	(千円)	381,341	635,413	673,908
四半期(当期)純利益	(千円)	406,022	438,408	569,044
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	387,110	511,038	570,189
純資産額	(千円)	5,666,129	6,211,996	5,849,209
総資産額	(千円)	17,226,607	17,353,230	17,472,874
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	34.06	36.86	47.74
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	32.9	35.8	33.5

回次		第32期 第3四半期 連結会計期間	第33期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成24年3月1日 至 平成24年5月31日	自 平成25年3月1日 至 平成25年5月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	17.33	16.63

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成24年9月1日～平成25年5月31日）におけるわが国経済は、震災復興需要に加え、昨年12月に発足した新政権による経済財政運営への期待感から、円高の是正や株価の上昇など一部に明るい兆しがみられました。しかしながら、設備投資や消費者の所得増加による消費回復にはまだ多くの時間を要するとみられ、欧州債務問題や新興国の成長鈍化を背景とした世界景気の不安定さもあり、依然として先行きは不透明な状況で推移いたしました。

当社グループが属する健康食品業界は、高齢者人口の増加と、消費者の健康維持・増進、アンチエイジング意識の高さから今後も順調に推移するものと予想されます。政府は本年6月の規制改革会議にて健康食品の機能性表示の容認を含む規制改革実施計画を閣議決定いたしました。検討・構築される新制度の動向に業界内外から注目と期待が集まっております。一方、企業間の競争は一層激化しており、厳しい経営環境が続いております。また、折からの円安傾向により原料価格が高騰し採算面においても予断を許さない状況を招来する可能性も否めません。

このような状況下、当社グループは主軸であるOEM部門及び海外部門が好調に推移したものの直販部門の苦戦により、当第3四半期連結売上高は10,793百万円（前年同期比1.8%減）となりました。損益面については、効率的な広告宣伝活動による広告宣伝費の圧縮に加え、減価償却費・のれん償却額の減少などにより、営業利益693百万円（前年同期比63.7%増）、経常利益635百万円（前年同期比66.6%増）となりました。また、四半期純利益については、特別利益が前年同期の314百万円から162百万円に減少したものの、前述のとおり営業利益、経常利益が増益だったことにより438百万円（前年同期比8.0%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

ヘルスケア事業

・OEM部門

当社グループの主軸である当部門は、既存顧客からの受注が堅調に推移し、売上高は前年同期比4.9%増となりました。カテゴリーとしては、引き続き市場動向と一致した関節、アイケア、美容、ダイエット、伝統商材が好調に推移いたしました。また、今第3四半期において、昨年よりブームとなっている酵素関係の商品が急伸びいたしました。引き続き人材の育成にも注力しており、営業の一層の強化に努めました。一方生産面においては、化粧品製造ラインに小容量向け液体充填包装機の導入準備を進めました。

・海外部門

アジア地域を主な取引先とする当部門は、主力地域であるシンガポールでの受注増加などにより、売上高が前年同期比31.5%増と好調に推移いたしました。シンガポールのAFC代理店におけるダイエット商材でのTVコマーシャルが功を奏したほか、既存OEM顧客からのプラセンタ商材での受注アイテム増が売上の伸長に繋がりました。

・通信販売部門

人気商品「薬用爽快柑シャンプー」を中心にTVショッピング、新聞広告を展開した結果、「爽快柑シリーズ」全体の売上が伸びました。また、ブランドの知名度向上と商品訴求に積極的に取り組んでおり、各種団体が行うイベントへの賞品協賛や健康セミナーの開催、工場見学会などを実施いたしました。しかしながら購入単価の低下などにより、売上高は前年同期を下回る結果となりました。

・卸販売部門

通販業・美容関連業を中心に「爽快柑シリーズ」が好調に推移したものの、主要取引先であるドラッグストア・スーパーマーケットへの販売が苦戦し、売上高は前年同期を下回る結果となりました。第4四半期以降の販売強化に向け、販路別にニーズに即した新商品の開発・投入準備を進めたほか、展示会への積極的な出店を計画しております。

・店舗販売部門

政権交代以降、百貨店業界は高額品に消費の回復がみられたものの、依然として入店客数の減少が続くなど厳しい状況となっております。そのような中、当部門は人的配置の見直しを行い、店舗の管理・指導を強化したほか、引き続き自社商品シェア引き上げによる利益改善に尽力いたしました。売上高については、不採算店の閉鎖や店舗集約による効率化を進めたことなどにより、前年同期を下回る結果となりました。

なお、当部門では新たな取り組みとして、大手百貨店のお中元商戦企画への協賛を、5月下旬にスタートさせました。同企画では従来のお中元カタログとは別に、当社商品を多数掲載した美容・健康に特化した専用カタログが作られており、当社店舗内で掲載商品を販売するほか、お中元ギフトセンターに専用コーナーを設け、センター及び電話でのお客様からのご注文をお受けする体制が整えられ、お中元期の新たな需要獲得を見込んでおります。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高9,654百万円（前年同期比1.1%減）、営業利益964百万円（前年同期比35.8%増）となりました。

医薬品事業

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品事業は、主力の製造承認を取得した医療用漢方製剤40品目について、医師、薬剤師及び医薬品卸の営業担当者に対して、品質・安全性の確保に対する取り組みのほか、同業他社の製品と比べ効果効果の同等性が極めて高いこと及び患者さんの経済的負担（医療費の自己負担）が小さいことなどを説明してきました。また、一般用医薬品事業については、中国の大気汚染物質の日本上陸などを考慮し、洗眼液を積極的に販売したほか、その他の製品においても積極的な営業活動、及び販売促進活動などを行いました。特にドラッグストアの商品担当者に対して、当該製品の医療現場での使用例などを中心に情報提供活動を展開してきました。

しかしながら、両事業とも同業他社との競争激化に加え、販売促進活動の不振が響き、医薬品事業の売上高は1,139百万円（前年同期比7.1%減）となりました。一方損益については経費の節減効果により、営業利益51百万円（前年同期比37.2%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

流動資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ112百万円増加し、8,436百万円となりました。この増加要因は主として、受取手形及び売掛金が294百万円減少した反面、現金及び預金が284百万円、仕掛品が74百万円増加したことによるものであります。

固定資産

当第3四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ232百万円減少し、8,916百万円となりました。この減少要因は主として、減価償却などにより有形固定資産が215百万円減少したことによるものであります。

流動負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ381百万円減少し、6,682百万円となりました。この減少要因は主として、未払法人税等が154百万円増加した反面、短期借入金金が592百万円減少したことによるものであります。

固定負債

当第3四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ100百万円減少し、4,458百万円となりました。この減少要因は主として、社債が50百万円、固定負債のその他が47百万円減少したことによるものであります。

純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ362百万円増加し、6,211百万円となりました。この増加要因は主として、四半期純利益の計上により利益剰余金が319百万円増加したことに加え、その他有価証券評価差額金が72百万円増加したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は62,966千円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,576,000
計	30,576,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年5月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年7月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,189,720	12,189,720	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	12,189,720	12,189,720		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年3月1日～ 平成25年5月31日		12,189,720		1,405,498		1,482,684

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年2月28日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 311,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,877,500	118,775	
単元未満株式	普通株式 520		
発行済株式総数	12,189,720		
総株主の議決権		118,775	

【自己株式等】

平成25年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社AFC - HD アムスライフサイエンス	静岡県静岡市駿河区 豊田三丁目6番36号	311,700		311,700	2.55
計		311,700		311,700	2.55

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年3月1日から平成25年5月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年9月1日から平成25年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,054,042	4,338,300
受取手形及び売掛金	2,038,597	1,743,834
商品及び製品	910,225	907,268
仕掛品	523,523	597,769
原材料及び貯蔵品	631,038	676,894
その他	220,547	224,592
貸倒引当金	53,459	51,673
流動資産合計	8,324,515	8,436,986
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,444,718	3,281,974
土地	3,784,329	3,787,700
その他(純額)	1,128,162	1,072,523
有形固定資産合計	8,357,210	8,142,198
無形固定資産		
のれん	26,255	7,397
その他	65,677	54,681
無形固定資産合計	91,932	62,079
投資その他の資産		
その他	706,736	719,432
貸倒引当金	7,521	7,467
投資その他の資産合計	699,215	711,965
固定資産合計	9,148,358	8,916,243
資産合計	17,472,874	17,353,230
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,601,859	1,589,883
短期借入金	4,381,446	3,788,532
未払法人税等	65,291	219,789
賞与引当金	95,000	142,550
ポイント引当金	53,000	52,000
その他	867,566	889,953
流動負債合計	7,064,163	6,682,708
固定負債		
社債	550,000	500,000
長期借入金	2,667,283	2,651,236
役員退職慰労引当金	343,810	342,395
退職給付引当金	163,727	178,408

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
負ののれん	5,069	4,647
その他	829,610	781,837
固定負債合計	4,559,501	4,458,525
負債合計	11,623,665	11,141,234
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,405,498	1,405,498
資本剰余金	1,482,684	1,482,684
利益剰余金	3,219,468	3,538,887
自己株式	198,961	228,223
株主資本合計	5,908,690	6,198,847
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	59,481	13,149
その他の包括利益累計額合計	59,481	13,149
純資産合計	5,849,209	6,211,996
負債純資産合計	17,472,874	17,353,230

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)
売上高	10,989,840	10,793,813
売上原価	7,497,557	7,408,002
売上総利益	3,492,283	3,385,810
販売費及び一般管理費	3,068,514	2,691,907
営業利益	423,768	693,902
営業外収益		
受取利息	252	255
受取配当金	5,679	9,731
負ののれん償却額	15,958	422
助成金収入	17,026	16,827
貸倒引当金戻入額	7,682	-
その他	24,571	20,127
営業外収益合計	71,169	47,364
営業外費用		
支払利息	107,996	96,275
その他	5,601	9,578
営業外費用合計	113,597	105,854
経常利益	381,341	635,413
特別利益		
有価証券償還益	1,730	-
投資有価証券売却益	-	90,227
補助金収入	313,125	72,375
特別利益合計	314,855	162,602
特別損失		
固定資産除却損	3,667	8,384
減損損失	3,279	5,861
投資有価証券評価損	384	-
特別損失合計	7,331	14,245
税金等調整前四半期純利益	688,865	783,770
法人税、住民税及び事業税	178,762	338,484
法人税等調整額	104,080	6,877
法人税等合計	282,842	345,361
少数株主損益調整前四半期純利益	406,022	438,408
四半期純利益	406,022	438,408

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	406,022	438,408
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	18,911	72,630
その他の包括利益合計	18,911	72,630
四半期包括利益	387,110	511,038
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	387,110	511,038
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

手形割引高

	前連結会計年度 (平成24年 8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年 5月31日)
受取手形割引高	115,982千円	105,282千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年 9月 1日 至 平成24年 5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年 9月 1日 至 平成25年 5月31日)
減価償却費	495,231千円	430,039千円
のれんの償却額	46,951千円	18,435千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年 9月 1日 至 平成24年 5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月25日 定時株主総会	普通株式	119,200	100	平成23年 8月31日	平成23年11月28日	利益剰余金
平成24年 4月 9日 取締役会	普通株式	59,599	5	平成24年 2月29日	平成24年 5月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年 9月 1日 至 平成25年 5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月27日 定時株主総会	普通株式	59,599	5	平成24年 8月31日	平成24年11月28日	利益剰余金
平成25年 4月 9日 取締役会	普通株式	59,389	5	平成25年 2月28日	平成25年 5月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年9月1日至平成24年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	9,763,058	1,226,781	10,989,840
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	9,763,058	1,226,781	10,989,840
セグメント利益	709,931	37,765	747,696

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	747,696
全社費用(注)	323,928
四半期連結損益計算書の営業利益	423,768

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年9月1日至平成25年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	9,654,635	1,139,177	10,793,813
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	9,654,635	1,139,177	10,793,813
セグメント利益	964,236	51,829	1,016,066

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,016,066
全社費用(注)	322,163
四半期連結損益計算書の営業利益	693,902

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額	34円06銭	36円86銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	406,022	438,408
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	406,022	438,408
普通株式の期中平均株式数(株)	11,919,992	11,894,486

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

第33期(平成24年9月1日から平成25年8月31日まで)中間配当については、平成25年4月9日開催の取締役会において、平成25年2月28日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

中間配当金の総額	59,389千円
1株当たりの中間配当金額	5円00銭
支払請求の効力発生日及び支払開始日	平成25年5月27日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年7月11日

株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 向 眞生
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 大須賀 壮人

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社AFC-HDアムスライフサイエンスの平成24年9月1日から平成25年8月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年9月1日から平成25年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス及び連結子会社の平成25年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。